再評価結果（平成２０年度事業継続箇所）

担　当　課：北海道開発局都市住宅課
担当課長名：小田島　聖

事業名	都市計画道路3.4.104本通（ほんどおり）中央通（ちゅうおうどおり）	事業区分	街路	事業主体	函館市
起終点	自：北海道函館市富岡町３丁目（ほつかいどうはこだてしとみおかちょう３ちょうめ） 至：北海道函館市花園町（ほつかいどうはこだてしはなぞのちょう）			延長	１．７㎞

事業概要

本通中央通は、赤川中央通と日吉が丘通を接続し、そのバイパス効果によって外環状線の渋滞を緩和し、富岡地区及び本通地区の交通円滑化を図る。また、沿道周辺に流入する通過交通の減少により、沿道環境等が改善され、より安全で確実な道路交通の向上が図られる。

Ｈ５年度事業化	Ｓ４８年度都市計画決定	Ｈ６年度用地着手	Ｈ９年度工事着手

全体事業費	約５６億円	事業進捗率	８７％	供用済延長	１．１㎞
計画交通量	７，４００台／日				

費用対効果分析結果	Ｂ／Ｃ	総費用	総便益	基準年
	(事業全体) １．８ (残事業) １．５	(残事業)/(事業全体) 6.0 / 62 億円 事　業　費： 6.0/ 62 億円 維持管理費：0.00/0.18 億円	(残事業)/(事業全体) 9.1 / 110 億円 走行時間短縮便益： 8.8/105 億円 走行費用減少便益：0.17/3.5 億円 交通事故減少便益：0.17/2.1 億円	平成１９年

感度分析の結果　事業全体について感度分析を実施

交通量変動：B/C=１．９（交通量+10%）　B/C=１．６（交通量-10%）
事業費変動：B/C=１．７（事業費+10%）　B/C=１．９（事業費-10%）

事業の効果等

・円滑なモビリティの確保（現道等における旅行速度の改善が期待される）
・国土・地域ネットワークの構築（現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する）
・安全な生活環境の確保（通学路である狭小な歩道が拡幅される）　他４項目に該当

関係する地方公共団体等の意見

これまでに３回住民説明会を開催したが、早期に供用できるよう要請があり、反対意見もなかった。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成１０年度に１工区(４９０m)、平成１６年度に２工区(６５０m)を供用済み。

事業の進捗状況、残事業の内容等

１工区(４９０m)及び２工区(６５０m)は供用を開始し、その後の事業区間についても順調に推移しており、概ね予定通り実施している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

１工区(４９０m))及び２工区(６５０m)の供用が開始し、３工区も順次用地交渉を進めており、全体区間の早期供用を望む声も多く聞かれ、計画年次での完成が十分見込まれる。

施設の構造や工法の変更等

再生骨材や再生アスファルト合材を使用し、資源循環の促進によりコスト縮減を図っている。

対応方針　事業継続

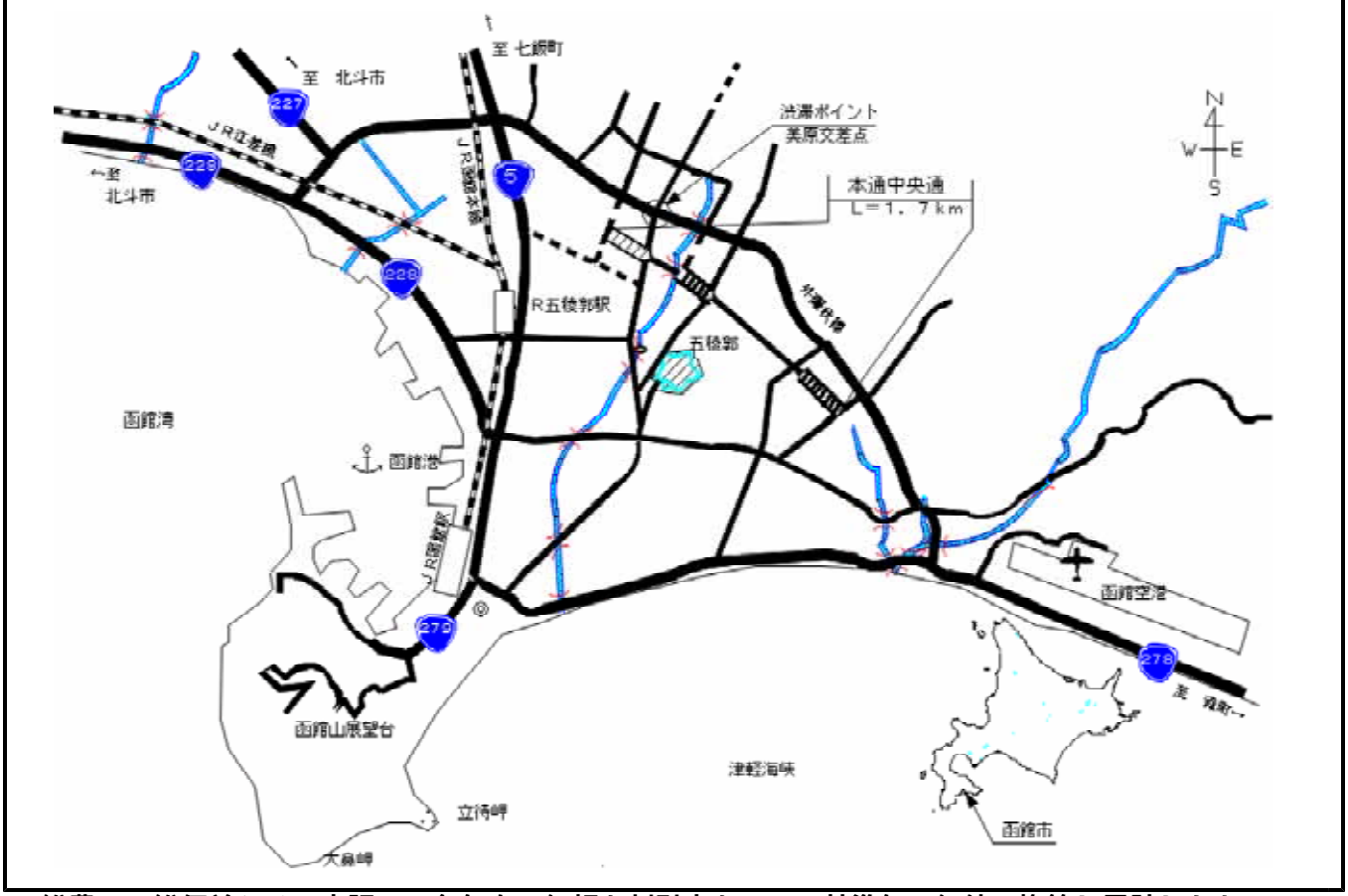
対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。